



急に発光強度が1桁、2桁下がった。



ネブライザをメンテナンスしてください。

昨日まで数十万 [c/s]の発光強度が出ていたのに、本日分析をすると数千~数万[c/s]しか出ない。このように急に強度が激減する不具合は、ネブライザの噴霧状態が変わっているケースが殆どです。

ネブライザの噴霧状態が変わる要因は、次の2つに分けることができます。

» ネブライザの先端部分に塩や異物が詰まりかけている

» アルゴンガスが漏れており、適切な噴霧量でない

» ネブライザの先端部分に塩や異物が詰まりかけている

ネブライザのは先端程、口径が細くなるため、塩や異物が詰まることがあります。小さな塩であれば純水を流し続けていれば、自然に溶けることもあります。

強度が中々復帰しない場合は、シリンジを使った固形物の除去方法をお試ください。

適当なシリンジとそれに合うチューブを用意し、図のように繋ぎます。



ビーカーに純水を入れ、ネブライザの先端を純水に浸します。
プランジャーを引っ張ると、シリンジ内に純水が引き込まれ、その際に詰まった固形物も取り除かれます。

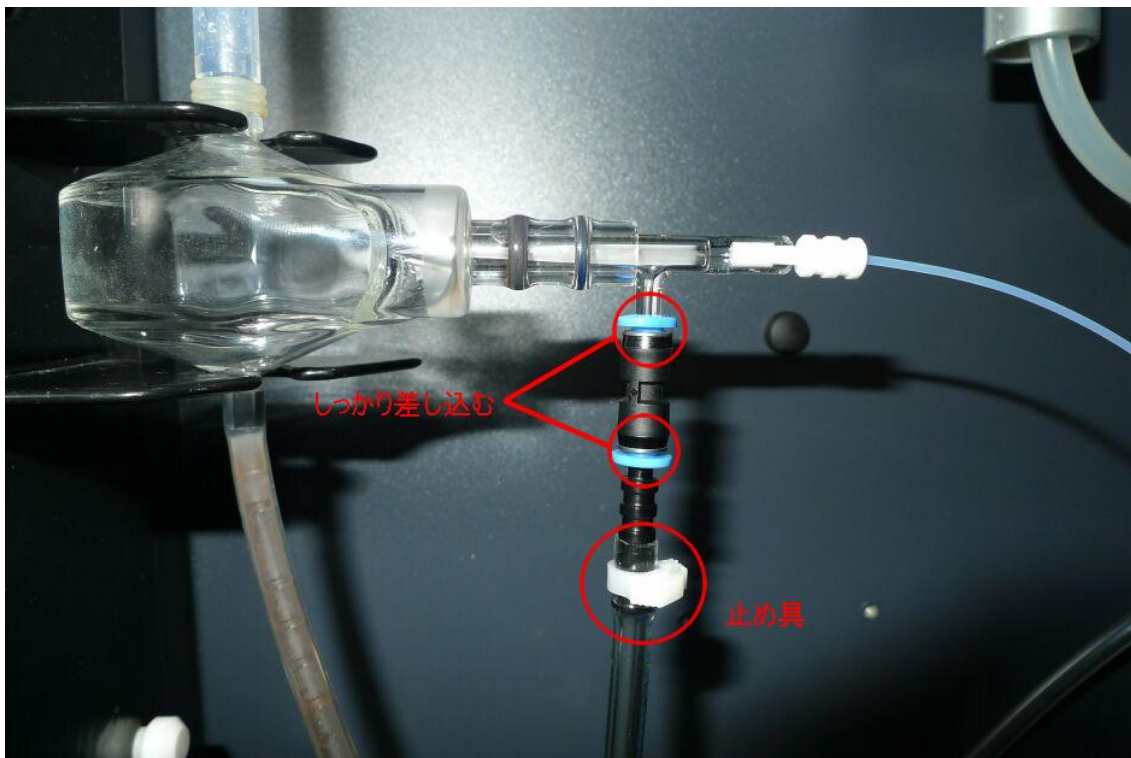


▶ Ar ガスが漏れており、適切な噴霧量でない

Ezylok コネクタがしっかりと差し込まれていることを確認します。取り付け時にカチッと音がします。

止め具で固定されていることも確認します。

止め具が無いと、ホースとプラスチックの管の隙間から若干アルゴンガスが漏れ出ることがあります。





Ezylok コネクタを使用されず、ネプライザとナルゲンチューブを直接繋がれている場合も、止め具で固定されていることを確認してください。

ご不明な点は、カスタムコンタクトセンタまで(電話受付 9:00~12:00,13:00~18:00 土、日、祝日は除きます)

電話  0120-477-111

E-mail: email_japan@agilent.com

FAX  0120-565-154

<http://www.agilent.com/chem/jp>